

旭地域協議会と議会との意見交換会記録

令和3年7月16日（金）
14時00分～15時10分
旭支所 大会議室

【出席議員】三浦議員、串崎議員、芦谷議員、田畑議員、牛尾議員、佐々木副議長

次第

- 1 開会
- 2 地域協議会会長挨拶
- 3 議長団挨拶
- 4 自己紹介
- 5 意見交換
テーマ：旭地域の課題について
- 6 地域協議会副会長終わりの挨拶
- 7 閉会

【議事の経過】

[14時 00分 開議]

1. 開会

芦谷議員 | ただいまから地域協議会と議会との意見交換会を開会する。
レジュメにのっとして進めさせていただく。

2. 地域協議会会長挨拶

芦谷議員 | 初めに旭地域協議会会長からご挨拶をいただく。
会長 | 今日は事前にご案内していたように、協議会の前段で市議との意見交換を1時間ほど予定している。日ごろ市議とお会いする機会も少ないので、今日の意見交換がスムーズに行くようお願いする。
平素は意見交換もないし、聞いていただくこともそうそうないので、この場を活用させていただければ大変うれしい。ただ、これは要望などの場ではないので、それはお互いご承知の上で話を進めたい。市議には旭までおいでいただき誠にありがたい。日ごろより旭のためにご尽力いただけてうれしく思う。
4月から自治区制度がなくなり、新しくスタートした。これからは、浜田は一体としてやっていかねばという気持ちである。今日の意見交換を有意義なものとしたい。そしてまた、初めての試みなのでお互いに意見交換し、連絡をとりながら一歩ずつ前進していけばうれしい。

3. 議長団挨拶

芦谷議員 | 続いて市議会を代表して副議長の佐々木がご挨拶申し上げます。
佐々木副議長 | 本日は旭地域協議会との意見交換会を初めて企画させていただいた。快くお引き受けいただき、大変お忙しい中とは思いますがご出席いただき、お礼申し上げます。
今日は6名で参っている。少し市議会の様子を話すと、議会活動の中で非常に重要な活動の一つに広聴活動がある。広く市民の意見・要望をお聴きする活動だが、常日ごろ、議員個人としてはそれぞれ行っているが、こうして議会で行うことに大きな重みがあると思っている。例年は議会報告会や地域井戸端会という形で行っているが、コロナ禍のため多くの方においでいただく会はなかなか持てない。

したがってこのような形で、各地域協議会との意見交換会を持たせてもらった。

先ほど会長からの話にもあったように、この4月からまちづくりの形が大きく変わった。本来だとこのような会は早目に持つべきだったが、そういうまちづくりの話をぜひ伺いたい。

先般7月11日、市議会の初めての取り組みとして「はまだ市民一日議会」を行わせていただいた。これは多分、全国で2番目になると思うが、市民に直接議場に来ていただき、しかも我々も緊張する壇上から市政に対する提言・要望などを行っていただく取り組みである。初めは本当に応募があるのかと思ったが、ふたをあけると17名の市民が手を挙げてくださり、貴重なご発言をいただいた。

本日、一応のテーマは設けさせていただいているが、限られた時間なので、忌憚のないご意見を伺ってこれからの議会活動などに反映させていただければと思うので、よろしく願います。

4. 自己紹介

芦谷議員

自己紹介を三浦議員のほうから願います。

(以下、議員の自己紹介)

芦谷議員

早速入るが、冒頭をお願いしたいのは、議会だよりに掲載することもあって写真撮影を行う。よろしく願います。

また、お手元に席次をお配りしている。

先ほど副議長からもあったように、平成17年に合併した。それまでの旧旭町時代のまちづくり、そして合併後は自治区を設けて約15年間進めてきて、この令和3年度から協働のまちづくりとして新しい切り口で地域振興が進められる。忌憚のないご意見をよろしく願います。

5. 意見交換

テーマ：旭地域の課題について

芦谷議員

もしよければ委員から、三つの切り口、旧旭町時代、合併後などに絡めて願います。

委員

今日ここで言うことはないと思っていたのだが、少し違う視点から。私は旭町役場があったころからずっといるが、職員の意識は一体どうなのかと時々思う。非常に露骨な表現だが、合併した当時は

旧那賀郡から来た職員は一日も早く支所へ帰りたいと言っていたのをよく耳にしたが、今はほとんどの人が帰りたくないと言っている。帰ると地域のことにかかわらねばならない。休みでも本庁にいと、仕事だと嘘を言っておけばばれない、地域のことにかかわりたくないという原因が非常に大きいように思う。しかしまちづくり条例で「市職員を積極的に」という項目も一つあるわけで、ここをどうされるのか。私は非常に注目している。

もし職員が地域のことに出始めたなら、私もあの条例は80%終わったものだと思うが、やはり地域のリーダーシップを取るのは行政職員もその一人である。どうか力を地域に貸していただきたい。

芦谷議員

今の意見に関連してでもよい、ほかの方から何かあれば。

佐々木副議長

事前にアンケートという形で少しご意見をいただき、我々も確認させていただいている。できればこのご意見を先に少し、趣旨を含めて言っていただければ、我々の認識もさらに深くなると思う。

委員

私は今、旭町で桃の世話をさせていただいている。生産者は11人いる。皆後継者がいない。仕事がつらいと聞いているが、何とか皆で持ちこたえ、協力しながら進めている。ちょうど今は桃の生産真っ盛りである。お盆前まで続くと思う。今年の桃は地域によってばらつきもあるが、何とか昨年に近い生産が出る。

しかし、次の担い手がない。若者もない。これをつないでいくことがなかなか難しい。何とかよい方法を。旭だけでなく、浜田でも旭の桃を宣伝してもらいたいが、そういう意味で市議からも何かよいアイデアがあれば。私らもそこまで手が回らない。参考になる知恵やアイデア、情報があれば聞かせていただきたい。ご検討いただきたい。

芦谷議員

今は農産物、桃の振興や担い手の話が出た。これに付随して、関連して、何か中山間の振興や担い手対策についてほかの意見があればお願いします。

ちなみに私の聞くところでは、梨園に地域おこし協力隊の方が入られたと思う。彼らへの感想やご意見でもよいが。

牛尾議員

金城の梨園だが、これも廃業された方がいらっしゃって事業承継という形で地域おこし協力隊の方がやっておられる。

ちなみにその方は、当初は旭町にお住まいで同じような境遇の方と結婚された。問題はここに書いてあるように、大学生にしんどい

ことだけ手伝ってと言うのはなかなか難しい。和田の桃は特においしいので、おいしい桃がここにあると体験してもらって、例えばそういう話を誰かに来てもらって話を聞きながら、何かよい考えはないだろうか、観光協会も入れて話し合いをされるのも一つの考えかと思う。

それと、例えば事業承継してどのくらい稼げるかとか。桃は大変だといまだに思っているが、どのくらいやればある程度の生活のめどが立つのかも説明しないと、やってみようという考えに結びつかない。

芦谷議員
委員

今の牛尾議員の話を受けて、何か一言ずつ皆からいただきたい。

こういう問題は、後継者がいないという問題と、働くところがないという問題がある。起業して、自分たちでいろいろな事業をして地域に根づくことをやっていかないと。働く場はないわけなので。浜田市の人口も減っていく。仕事をする場所。自分でやる方法を考えていかなければならない。

三浦議員

今おっしゃったように働き方はさまざまになってきている中で、自分が将来どういった仕事をしていくのかは、教育の観点でもすごく大事な視点だと思う。となると会長がおっしゃったように、地元にある産業と教育をどのように結びつけていくか、これは地域の力だと思う。まちづくりセンターの方々にも協力していただきながら、教育プログラムの中に地元の産業という要素をしっかりと、小中学生のころから入れていくのは、一つのアプローチとして大事だと思う。

それから牛尾議員が少し触れられたが、事業承継というのを今浜田市は地域おこし協力隊を入れながら、地域に後継ぎがないいろいろな企業に、地域おこし協力隊制度を使って入れていきながら、事業がなくならないように引き継いでくれる人を募集する取り組みをやっている。例えば桃農家も今11人いらっしゃる中で、それぞれの事業規模も大小あるのだと思う。その中で事業承継という視点から見ると、桃の生産は1年間にどれくらいの稼ぎがあるのか、どのくらいの手間があるのか、1事業者の桃畑を引き継ぐだけではなかなか稼ぎにはならないかもしれないが、2人分、3人分を引き継ぐことによって桃だけである程度の収入が得られるかもしれないとか。事業体を見直していくことも、農業の視点では必要なのかと思う。

生産効率を上げていく、農業のスタイルを見直していく、そうい

ったところも後継ぎの確保には重要な視点なのかと思う。

ただ、言葉ではこのように簡単に言うが、農業にもいろいろな技術や気候条件、さまざま闘っていかねばいけないところがあるのは十分承知している。いきなりゼロから始めるのは非常に難しい。先人の知見をきちんと引き継いでいながら、地元の産業を残していきたいという意味では、生産者がおられるうちに次の方にどう引き継ぐか。サポートを入れながら人の確保、情報発信をしていく必要があると思っている。

大変貴重なご意見や現状をお伺いできたと思う。

芦谷議員

産業振興と教育関係、事業承継に地域おこし協力隊から人材を入れるなど、いろいろな提案があった。

旭には矯正施設がある。これができてもう15年くらいになると思う。こういったこと。今度隣には、大和ラジエターがある。比較的雇用の場はある感じもするが、若い人の定着や雇用の問題が出たので、これについてももしあればお伺いする。

田畑議員

担い手ということだが、浜田市では中山間地域振興枠という予算を、令和3年あるいは4年から10年間、10億円の基金を積み立てて、担い手を育成しようという支援事業を取り組んできた。桃生産のための担い手が誰かおられるか。来られた方が、桃の生産以外に米をつくる、何々をされる。生活できる仕組みが得られるかどうか。販路を求める本人の努力も必要だと思うが、一般的に夫婦で従事したらどのくらいの収入があるか。桃の生産、米の生産、あるいはその他野菜を生産する上においても、生活できる収入が得られるかどうかが一番大切だと思う。多少冒険する部分もあるかもしれないが、担い手として頑張っていただけの方を支援しようということ、5年間で4億3千万円の。それよりほかの事業もある。担い手育成事業ばかりではなく、ほかの事業もあるが、トータル的には4億3千万円くらいの予算をつけてそういう方々を支援しようということになっている。全てがそうではないが、農地を保全しようとか、いろいろな要素があるのだが、そういった事業を計画している。

いろいろな考え方がある中で、後方支援していくということでもとめているので、これは令和3年から7年までの間で実施しているので、また市長から説明があろうかと思う。

今はっきり言えるのは、令和3年から7年までの5年間で4億3千万円

はそういった事業に充当できる枠組みをつくっている。ほかの事業もあるので一概には言えない。そういうところを認識の上、検討していただければ。

串崎議員

大変難しい問題である。桃を頑張っておられる方は私もよく知っている。現在もコロナ禍で田舎のほうへ帰ってくる方が主流になっているが、こちらの受け入れ体制がきちりしていなければ帰ってこられない。

今言われたように収入面は大事なこと。半農半X、桃とほかのものを合わせてそれで収入を得るという体制をいかに行政と地域の方が連携してつくるか、つくらないか。そういったPRも必要かと感じている。

芦谷議員
委員

2人の議員から意見が出たが、これに関連して何かあるか。

私から田んぼのことで言いたい。中山間地には耕作放棄地が大分増えている。数日のうちに集中豪雨があった。田んぼをつくっているところと放置しているところでは水の出が違う。放置しているところはのり面も崩れている。そこに集中豪雨が来ると土地が流れ込む。しかし小さくても田んぼをつくっているところは畦畔もコンクリートにさせていただいているので、そこから水が漏れることはない。排水溝から自然に流れていく。

高齢化している。休みのときに子どもが応援に帰ってきてくれる。それはありがたい。民主党時代には戸別補助基金というものがあつた。政党のよしあしではなくそのお金が我々農家には大変ありがたかった。

少しの田んぼでも皆が植えて、田んぼに戻していく。年齢も高く仕事にならない。JAに出すお金も安くなるばかり。経営難で成り立たないのが実際であるが、田畑を守ろう地域を守ろうということで頑張っている。そういうことを踏まえて、基金的なものを浜田方式でつくっていただいて。今、90%以上の苗はJAから購入している。その苗代の一部でもあれば希望ができるのでは。植えてしまえば、その維持管理は知恵を持っているので。苗代を少しでも補助いただければ。それも10年20年続くとは限らないが、とりあえず1年1年を過ごしていつて。地域を荒らさないことを考えて。少しでも金銭的にお手伝いをしていただければ。田舎を助けるにはそれしかないかと思う。

今の市長になられて、奥のほうには何ら展望がないという気持ち
が実態である。そういうことを踏まえて。都川小学校が閉校になっ
たのは平成19年3月である。合併したのが平成17年。閉校のときに当
時の市長が来られて、まず一番に地元の人に頭を下げて、涙を流し
て、市長の責任で大変申しわけないと言われたのを、私は記憶に残
っている。やはり地域の学校がなくなるのは、地元の人間には子ども
が少なくなって仕方ない面もあるが、市長が頭を下げられて謝罪
されたことを肝に銘じている。そのことを踏まえて、閉校になった
後、昨日副市長が来られていろいろ話をさせていただいた。旧那賀
郡がよくなないとこの合併は意味がないというのが前市長の言葉
であった。旧那賀郡を見捨てないようにしていただいて。我々も頑
張っている。

田畑議員

確かに中山間地域が減びることによって、その地域が壊滅状態に
なるとよく言われている。私が都川に頻繁に足を運ぶようになった
のは、縁側喫茶が始まったころから。日本棚田百選に選ばれた都川
の棚田、三隅の棚田、この二つを何とか守ろうと。既に耕作放棄地
になっていたものについてはそのままになっているが、そこへ大雨
が降って一番上の石が一つ崩れると、上から下まで全滅状態みたい
になる。地域の方々が守っていくか。田んぼをつくるにも苗の問題
があって、何とかならないかという話もあった。しかしやはり、営
農組合や法人化されてない地域においては、非常に厳しい。個人で
される方が本当に大変厳しい。私も田んぼを持っているが、苗は自
分で作る。しかし自分の体にも限界があるので、徐々に減らさね
ばいけないかと思っている。

おっしゃったような、浜田方式においてどのような形で農業支援
を、中山間地域振興枠の中でどう対応できるか。これは旭地域の問
題だけでなく全市的な問題として捉えて推進していかねばと思う。
もう少しお待ちいただきたい。

串崎議員

おっしゃったように耕作放棄地が増えれば景観悪化、生態系がな
くなる、土砂災害、というように農業が衰退すれば地域が減びる。
今やっている「人・農地プラン」というのがあり、来年度に法律化
されるようである。要するにその地域に市や県の職員が連携して、
地域に入って5年先10年先のビジョンを決めるというものである。地
域をどのように守っていくかを話し合う。それを正副も推している。

芦谷議員

当然市もやるべきだし、体制が強化されると思う。そこで地域の皆と話し合いをして、10年先の農業をどうするか、この田んぼをどうするのか。地域を守るということで話があることをお伝えしておく。

都川の例を出して2人の議員から話があった。中山間地域を、あるいは地域を守る、こういう視点で話があれば願います。

委員

先ほど来から話を聞かせていただいた。牛尾議員の言われた件について。どうも郡部と市の寒暖差がひどいのではないかと思っている。なぜかという、郡部については宇津市長時代には、郡部が頑張ってくれないと旧浜田市内はない、くらいのことを言われていた。しかし今の行政を見ると、どうも浜田が頭、郡部はいつでもよいというようにしか我々には取れない。今の行政のやり方について。市長のやり方についても。何かこう、地域が見捨てられているのではと思っている。

随分前に私も、協議会のしょっぱなの委員だった。そのときには、郡部から宇津市長が、旧浜田が大変で、財政が厳しいから、何とか助けてくれということで郡部が随分お金を貸した。そのことについても、先般ここに市長、副市長が来られた。この島根県で今の浜田は随分よいところで財政を保っていると鼻高々と言われた。ただし、私はそのときにすごく腹が立っている。

合併当時、宇津市長が資金を貸してほしいと言われて出したが、今の市長がそのときのことを知らないとは言わない。恐らく知っておられる。あのときは大変世話になったと、なぜ一言言えないのかと、私はまだ頭にきている。多分当時の委員の方は皆そう思われているのでは。腹が立ってかなわないので市議に伝えておきたい。

牛尾議員

確かに、合併して川上が豊かにならねば川下は、ということをやっていた。平成20年に浜田市は第2の夕張になるのではということで、議会も職員も報酬をカットしながら、実際自治区のときは好意の借金をお借りした。大変お世話になった。ただその後に乗せして、お借りした基金はそのまま基金でお返ししている。そういうことはしているので、そこは冷静に受けとめていただきたい。

おっしゃることはよくわかるが、今中心市街地には、どうしようかという問題がいっぱいある。旭も中心部も、ケースは違うが同じような状況である。その中でどうやって、何とか将来につないでいくか、共通の問題があると思う。こういう話をしないと、今のよう

な誤解を解いて次に進むことにはならないのかと思った。

委員

お金が返還されたというのは知っている。しかしそのときに、実際旧郡部が助けたわけだろう。それがなければ今の浜田市はない。夕張のような状態だったわけだから、一応は一言でも言っていただきたかった。幾ら返したといっても、利息をつけて返されたと言われても、一応は声に出していただきたかった。先般初めて皆の前に市長は出たのだから。私はいろいろな会議で出会っているが、ほとんどの方は出会ってないだろう。先般来られたときから、そのことが頭から離れない。今日はそれを強く言っておきたいと思っていた。

芦谷議員

これも合併前後の話になるが、このたび新しくまちづくりの条例もでき、新たなステージに入る。まちづくり条例の旭町での受けとめ方について、ご意見があればお願いします。

委員

今回のアンケートに、まちづくり条例の旭町での受けとめられ方ということで、住民はこのように思っているということをお伝えされたらと思って上げたのだが、我々子育て世代がまちづくり条例をどう思っているのか、ふだん話をしてみても、公民館がまちづくりセンターになったのだからの受けとめられ方をしているというのが正直な感想である。ここには自治会の会長たちがおられるが、月に一度集金常会がきちんとある地域だと、順序立てて地域に情報がおりにって、説明が丁寧にされているのを聞いているが、私が住んでいる地区は旭町の中でも少し特殊で、市営住宅群になっている。その分人口は多いはずだが一同に会して話を聞く機会はなく、情報を受け取るとしても市報を見るくらいしかしていない世帯がたくさんある。多分ぼんやりとしか受けとめてないだろう、自治区がなくなってどうなったの、くらいにしか受けとめられてないだろうと思う。何が変わったのかと思いつつながら、皆探っている。私たちの生活がどのように変わったのかと思われているくらいかと思う。生活の中で変化を感じるのは今からの話かと思う。今のところの受けとめられ方はそのような感じ。

芦谷議員

協働のまちづくり条例ができて、今後自治会、町内会を含めて、どう住民のかかわりをつくっていくかという話かと思う。まだ発言のない方がいるので、今回のまちづくり条例、まちづくりセンター、あるいは町内自治会含めて、自分たちの地域ではどうなっているか、もしご意見、事例、要望があれば一言ずつお願いしたい。

委員

今まで公民館だったものがまちづくりセンターに変わったくらいのことだろうと地域の方も捉えていると思う。ただ職員が2人いたのが3人になって、私も行っていろいろな話をしているが、一体何をしていた業務をこなしていくことと、3人いてそれなりのお金もいただくので、しないといけないと言っておられた。

まだ地域の方がまちづくりセンターにどれくらい入っていくかは、はっきりしない。1年たってみないとわからないのではと思う。

芦谷議員

次の方、お願いします。

委員

今の話だが、毎月常会という会合があって、その最後に、いろいろな資料をもらうのでそれをコピーして説明はしているが、先ほど話があったように、果たしてそれが浸透しているかどうかは自信がない。私の力不足である。これから進めていこうと思う。

委員

我々の地域も、自治会長を仰せつかって1年半である。地域協議会の役員としてもやっているが、今年はまちづくりセンターに変わって、そのまちづくりセンターを核にということで、私の地域には四つの自治会があるが、会長が中心になってまちづくりセンターで会議をしている。少しずつそうやって、変えていかなければと思う。今はまだ始めたばかりなのでわからないが、職員の意識をしっかりと、これまでと違うものに変えていかなければいけないし、我々も巻き込むまちづくりができればよいと思う。

委員

私も今2年目だが、それまでもずっと監事、会計、副会長、そして今は会長を仰せつかっている。現状を見ていると、大体役員をやる方が決まっている。なかなか新規でやる方がいない。

これはまた違う話なのだが、担い手の問題などいろいろあるが、昔は三世代くらいまで一家で住んでいたものだが、今は核家族化で。若い人が都会から近くへ住んでくれたら、担い手不足も多少はうまくいくのではと思うが、遠方の市街地や県外へ住み続けるとどうしても。職場や商業施設が近くにある、娯楽施設も近くにある、そういうところを今の若い人は狙って住んでいるのでは。そういうところへ向けては親であっても声をかけにくい面もある。だからどうしても残っている者でやらなければいけない。その辺をどうしていくかを考えていかないと思う。

委員

現在、和田まちづくりセンターに勤めているので、職員の立場で

の話になる。私が勤務した折にまちづくり委員会ができて、それから公民館とまちづくり委員会にかかわってきた。そもそも住民が、まちづくり委員会というものが何なのかをまだ認識していないというか、浸透していなかった。認識されてない段階でまちづくり条例というものにかかわったとしても、地域の方には何ら不自由もなく、変化もないと感じておられるのではないかと思っている。そこが残念なところではあるが、公民館時代にも地域課題については随分考えた。地域課題が山積していることは承知していたが、館長と主事の2名体制ではなかなか取り組むところまで行ってなかった。今回職員も増えるので、少し動けるようになったと思っている。

現在まちづくりセンターを核としていろいろ動いているので、ここからいろいろな課題解決につなげていけるのではとひそかに期待している。

委員

私もまちづくりセンターの主事をしている。小さい地域なので自治会を中心に公民館も寄り添ってお手伝いする形でやってきた。まちづくりセンターに変わってからも内容自体は変えることができないので。また地域課題もここ数年ずっと変わってないように思う。とりあえず今は現状維持をするしかないというところからスタートなので、まだ今すぐどうこうという結果はもちろん出ないし、結果が出ることはないと思っている。議員や市にも相談しながら今後も続けていきたいと思っている。

委員

南光台はご存じのとおり、島根あさひ社会復帰促進センターの宿舎があり、常に400人くらいの職員及び職員家族がいるが、何せ異動が多く、ころころ住人がかわってしまう。地元への定着が課題なのかと。職員一同、いかに地域貢献できるかを皆で考えている。

委員

我々のまちづくりでは今市地区として、今市まちづくりセンターの中の一つの自治体である。今までの自治区がなくなり、まちづくりセンターになったわけだが、実際のところ去年と今とで極端に変わったところはない。少しずつまちづくりセンターを中心としての活動が徐々に浸透しつつあるのではと思うが、まだ昔の公民館活動の延長という状態ではないかという気がしている。皆も少しずつ協力して、私も努めていくし皆も協力をよろしく願います。

委員

先ほど自治会長が触れたように今市地区として振興会をつくっている。まちづくりセンターと協力して一緒にかかわっている。先進

的な地域だと思っている。浜田市からも我々の活動を見に来られた。住民主体となってやっていかなければと。特に浜田市中心部は町内会組織で、自治会と違うので同じものはなかなか浸透しないのかもしれないが。

委員

坂本地区の自治会長をさせてもらっている。今市、丸原、南光台の取り組みには私も直にかかわらせていただいて、大変勉強になったし、参加の方々も多くはないが、4地区力を合わせてやっていることで助けられていると思う。我々の地区は限界集落で、不平を言えば山ほどある。しかし人間でやるしかない。自治会を担う人がいないのではなく、人間がこれだけしかいないので、この中で自治会を回すしかない。次に回す人がいない。

次の代につなげていくというところでも、我々のところには30代の方がちらほらおられる。人数は非常に少ないが、よく働いてもらっている。我々世代の話もよく聞いてくださる。そういう方に常に加わってもらってやっていく方向で進んでいる。

いろいろな課題はあるが、なるべく暗くならないように。前を向いていくようにしている。

芦谷議員

多くの方からご意見を拝聴した。時間もきたのでこの辺で一応の締めをしたい。

最後に副議長からコメントをお願いします。

佐々木副議長

まずは、前回金城町のときもそうだったが、皆の生の声を聞かせていただいて本当によかったと感じる。

最初に、職員の地域へのかかわり方について問題提起をいただいた。管理職で退職されるときには、今後は市民となって地域に帰ってしっかり貢献したいと皆それぞれおっしゃるが、現役の職員の中にはそういう方がおられるとも感じる。より地域のために、地域がよくわかるのは職員なので、貢献していただくよう我々もしっかり働きかけたい。

前半は中山間地域のさまざまな問題を聞かせていただいたし、自治区制度の問題も聞かせていただいた。ちょうど今日は中山間地域振興特別委員会の田畑委員長、それから産業建設委員会の串崎委員長もそれぞれ来ている。所管業務だと思うので、しっかり各委員会で今日出た問題を検討していただきたい。

今日いただいたご意見、今後しっかり議会の中で協議していくが、

とりあえずは個々に一般質問でも取り上げるようにしているので、また議会報告等をごらんいただければ、何かしらの答えがくるのかと思っている。

今日は代表のみで、まだ言い足りない方もたくさんいらっしゃるだろうが、今後もしこういった機会が継続できれば、引き続き伺っていきたい。今日は貴重なご意見をいただき、本当に感謝する。

6. 地域協議会副会長終わりの挨拶

芦谷議員
副会長

終わりに、地域協議会副会長から挨拶をお願いします。

今日は議員におかれては非常にお忙しい中、旭町に足をお運びいただいたことお礼申し上げます。今回は第1回目なので、なかなか。アンケートを集約したものはあったが、集中してこの議題について、というのが一つあったわけではないので、さまざまな意見が出た形にはなったが、今後も意見交換会が定期的にあるとわかれば、地域協議会の中で議題を絞ることができると思う。ぜひ今回を初めとして、定期的にこういう機会を設けていただければと思っているので、今後ともぜひよろしくをお願いします。

芦谷議員

これで終わるが、今日は議員6人と、その後ろにも傍聴で議員が2人いる。その後ろには職員が控えている。今日の意見をしっかり踏まえて、それぞれの立場でそれを生かしながら、浜田市政の進展、それ以上に旭地域の振興・発展に頑張っていく。

[15時 10分 閉議]